

平城宮庭園跡の見学&座学

12月18日は、どんより曇った生憎の天気
で、一時は小雨もぱらついた。参加者は寒さ対
策も万全にして、10時、新大宮駅をスタする。
二条大路を西へ、菰川を渡ってイトーヨーカ堂
前へ。二条大路に面して有名な長屋王邸跡の南
側に「平城京左京三条二坊宮跡庭園」がある。

昭和50年に発掘調査され、奈良時代中期、
七五〇年頃に作られた庭園跡で、平城宮の離宮、
あるいは皇族などの邸宅の一部であることが判
明した。遺跡庭園には、菰川の一部を利用した
S字型の流水の池が配される。西側には建物が
あり、ここから三笠山や東大寺、興福寺の大塔
が望めるロケーションだったようだ。S字型の
池は保存状態が良く、昔のままの姿を見られる
貴重な遺跡であること、平安時代に行なわれた
曲水の宴の歴史がここまで遡れるのではなかろ
うかなど、岩本次郎先生の丁寧なご説明に、
1300年をタイムスリップして歴史ロマンの
世界に浸る。



古梅園の見学は都合で中止となり、バスで漢
国(かנגう)神社と率川(いさがわ)神社へ。
漢国神社も率川神社も共に、推古天皇元年(5
92年)勅命により大神君白堤(おおみわのき
みしろつつみ)が勧請した奈良市最古の社であ
る。

漢国神社は大物主命(三輪の祭神)を祀り、後
に藤原不比等が大己貴命と少彦命を合祀したと
社伝にある。また、境内には14世紀、餡入り
の饅頭を広めた元祖、林浄因(りんじょういん)



を祀る「林(りん)神社」があり、菓子業界
の尊崇を集めている。

率川神社は、6月の「三枝祭」(さいくさの
まつり)で有名だが、笹百合の古名「サイク
サ」がその由来。主祭神の媛踏鞆五十鈴姫命
(ひめたたらいすずひめ)を中に両脇には父
神の狭井大神(おおみわのあらたまのかみ)、
母神の玉櫛姫命を配祀するため、「子守明神」
の別名がある。なお、媛踏鞆五十鈴姫命は神
武天皇の后で、古事記に記されている三輪山
神婚譚や、天つ神と国つ神等の伝承にも想い
が拡がり興味深い。



午後は、女性センターでの座学。岩本先生
の「推古天皇の登場事情」、川井さんの「社叢
のはなし」、杉本さんの「万葉秘話」。いずれ
も、現地学習のでは聞けない蘊蓄の一部が披
露され、参加者は熱心に耳を傾けていた。

この日、事務局からの「25年度の構想」
案に基づき、話し合いが行われた。出席されな
かった歴文クラブ会員の皆様には別途メール
等でお知らせして、ご意見やご提案を頂く予
定。なお、当日の参加者数は男子16名、女
子4名計20名でした。(古川祐司 記)